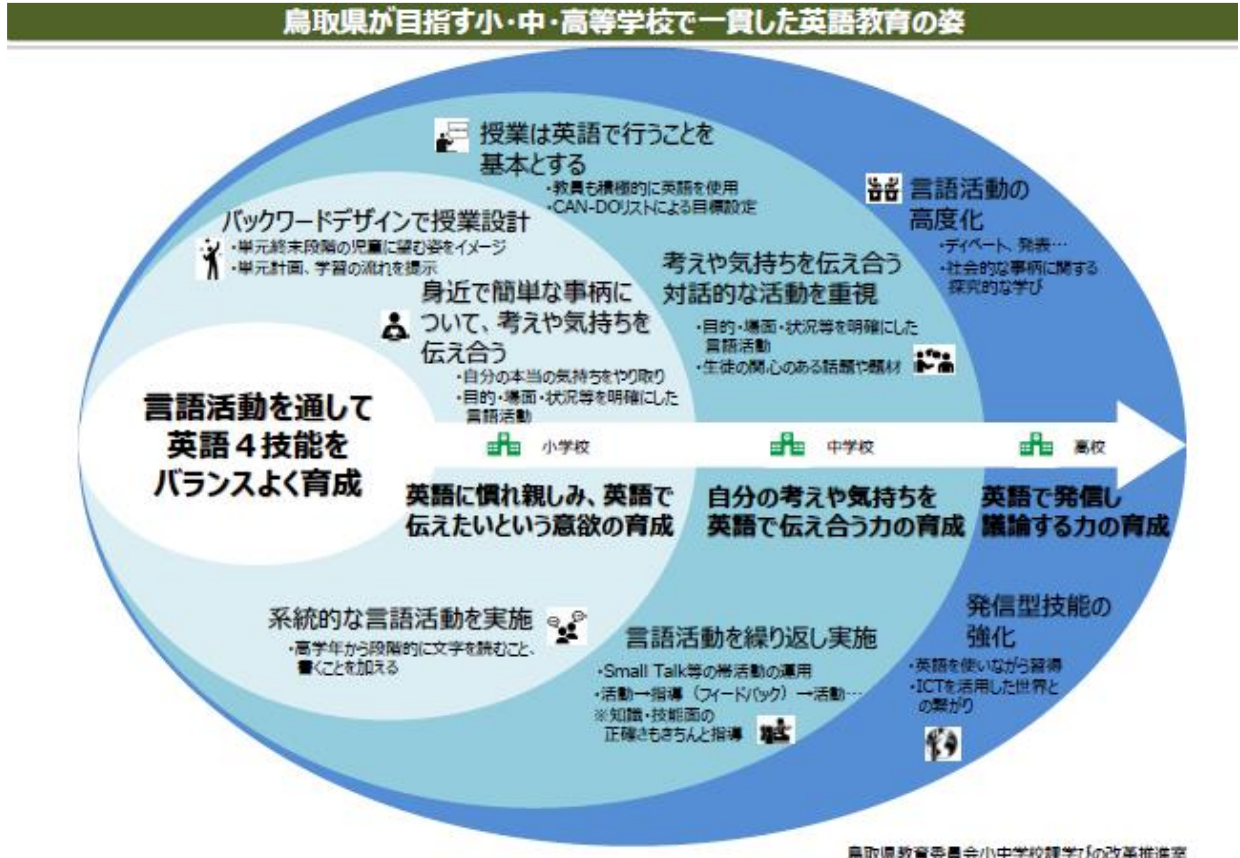


鳥取県英語教育改善プラン

実施内容



令和4年度英語教育推進に係る事業全体図

小中高等学校における系統的な取組

英語教育推進委員会
 大学教授 2名
 教員長 2名
 各校副校長 3名
 エキスパート教員 3名

英語教育推進フォーラム
 鳥取県高等学校
 岩美中学校
 岩美町小学校

小中高等学校を繋ぐ研修協力校事業

優れた授業を公開 (小・中・高等学校)
 ・実践を広く周知
 ・本県の英語教育の方向性を協議

推進事業

外国語教育の抜本的強化のイメージ (文科相特命)

改正・充実
 ・学年が上がるにつれて意欲に課題
 ・学校種間の格差が不十分

「何ができるようになるか」という観点から、国際基準 (CEFR) を参り小・中・高等学校を通じた5つの領域 (聞くこと「読むこと」「話すこと(やり取り)」「書くこと」) 別の目標を設定

・与授業を統合的に扱う科目群 (英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ)
 ・ディベートやディスカッション等を通して発信力を高める科目群 (論理表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ) を設定
 ・授業は外国語で行うことを基本 (前回改訂より年間140単位時間(週4コマ程度))

・外国語で自分の考えや気持ちを伝え合う対話的な活動を重視
 ・具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを表裏に活用する言語活動を充実
 ・授業は外国語で行うことを基本

5・6年 (教科) 年間70単位時間(週2コマ程度)
 ・段階的に「読むこと」「書くこと」を加える
 ・指導の系統性を確保 (15分程度の短時間学習の活用等を促した弾力的な時間割編成も可能)

3・4年 (活動) 年間35単位時間(週1コマ程度)
 ・「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「発表」を中心
 ・外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める

ALT及び支援員の配置
 小学校外国語・外国語活動支援員配置事業 (教育人材開発課要求)

外国語指導助手等指導力等向上研修会
 ・ALT及び教員対象に、ワークショップ型スキル向上トレーニング研修を行い、指導力の向上を図る

生徒の英語使用の機会の創出

グローバルリーダーズキャンパス
 世界トップクラスの大学である米国スタンフォード大学と連携し、インターネットを活用した県内高校生向けのライブ遠隔講座を開設

鳥取発！高校生グローバルチャレンジ事業
 ・高校生留学・海外体験説明会
 ・高校生海外留学支援(長期)
 ・高校生海外体験支援(短期)
 ・高等学校等海外派遣支援(学校単位)
 ・高校生英語弁論大会
 ・高校生優秀者海外派遣 (高校生英語弁論大会優秀者)(理数課題研究等発表会優秀者)
 ・NZクライストチャーチ高校生架け橋プロジェクト(ホームステイ受け入れ)

教師の指導力向上
 新学習指導要領に基づいた授業改善
 生徒の英語力向上 **急務**

県内すべての中学校を訪問 (予算措置なし)
 小学校英語専科配置校を訪問 (予算措置なし)

・小中学校の英語の授業を参観し、その後指導助言を行う。学習指導要領改訂の概要を伝え、授業改善に取り組む。

・中学校のテスト改善を行うことで、授業改善につなげる (学力向上総合対策推進事業)
 ・小学校高学年においても英語を学ぶ意欲が継続されるよう、授業改善に取り組む

検証

英語力向上事業(中学校)
 ・県内すべての中学2年生に外部試験(英検IBA Dレベル)を実施し、結果を分析・活用して授業改善につなげる
 英語教員等指導力向上研修
 ・外国語科における指導と評価の研修(中・高等学校)(小学校)
 ・土曜の英語学び塾 *予算措置なし

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

※令和2年度の数值は、「令和2年度鳥取県英語教育実施状況調査」集計結果等による

①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合

・中学校

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	国の目標値
26.5%	25.7%	20.7%	28.2%	35.8%	34.9%	37.3%	33.5%	50%

・高等学校

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	国の目標値
75.4%	70.9%	76.0%	83.3%	97.4%	92.7%	93.2%	96.0%	75%

②小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値	20%	30%	35%	40%	45%	50%
実績	10.1%	6.3%	9.7%			

③求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

・中学校第3学年

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	国の目標値
32.0%	40.7%	34.4%	35.7%	37.1%	38.8%	45.6%	40.3%	50%

・高等学校第3学年

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	国の目標値
29.0%	35.0%	33.9%	36.5%	33.3%	42.7%	44.6%	45.8%	50%

④「CAN-DOリスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況(設定・公表及び達成状況の把握等の状況)

・小学校

(暫定値) (目標値)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
設定								65.2%	100%
公表								14.9%	100%
達成状況の把握								41.3%	60%

・中学校

(暫定値) (目標値)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
設定	1.7%	100%	98.2%	91.2%	96.5%	100%	100%	96.4%	100%
公表	1.7%	5.3%	12.3%	8.8%	43.9%	53.6%	42.9%	51.8%	100%
達成状況の把握	0%	28.1%	28.1%	29.8%	38.6%	37.5%	33.9%	46.4%	100%

・高等学校

(暫定値) (目標値)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
設定	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
公表	4.8%	27.3%	15.2%	100%	100%	93.8%	96.7%	100%	100%
達成状況の把握	40.3%	33.3%	36.4%	42.4%	37.5%	28.1%	51.6%	65.5%	100%

⑤授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合(授業時間の50%以上実施の教員)

・中学校

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
26.7%	69.8%	45.3%	73.5%	67.2%	70.4%	78.0%	66.0%	85%

・高等学校

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
40.3%	49.8%	46.3%	50.8%	48.7%	54.5%	44.6%	31.6%	60%

⑥「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況
 <スピーキングテスト>

・中学校

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
8.1回	6.8回	6.5回	8.7回	8.8回		11.6回	9回以上

・高等学校

「コミュニケーション英語Ⅰ」

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1.1回	1.8回	1.6回	1.1回	1.0回		1.1回	3回以上

「コミュニケーション英語Ⅱ」

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1.0回	0.8回	0.7回	0.5回	0.6回		1.2回	3回以上

「コミュニケーション英語Ⅲ」

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
0.4回	0.6回	0.3回	0.6回	0.2回		0.6回	3回以上

「英語表現Ⅰ」

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1.0回	0.9回	0.8回	0.9回	0.7回		0.6回	3回以上

「英語表現Ⅱ」

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1.3回	1.2回	0.9回	0.7回	0.8回		1.0回	3回以上

<ライティングテスト>

・中学校

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
4.4回	4.3回	4.9回	7.6回	8.5回		8.5回	9回以上

・高等学校

「コミュニケーション英語Ⅰ」

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
0.4回	0.8回	1.0回	1.9回	0.9回		1.8回	3回以上

「コミュニケーション英語Ⅱ」

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
0.6回	0.7回	1.0回	1.0回	1.2回		1.3回	3回以上

「コミュニケーション英語Ⅲ」

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
0.5回	0.3回	0.1回	0.7回	1.4回		1.3回	3回以上

「英語表現Ⅰ」

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
0.4回	0.8回	1.3回	1.8回	1.4回		2.0回	3回以上

「英語表現Ⅱ」

					(暫定値)	(目標値)	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1.5回	1.9回	2.9回	2.4回	4.4回		3.5回	3回以上

⑦授業における、英語担当教員の英語使用状況（発話の50%以上を英語で行っている教員）

・中学校

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
26.7%	56.5%	75.2%	61.3%	63.4%	64.0%	70.2%	68.4%	74%

・高等学校

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
40.3%	47.4%	46.3%	48.1%	50.8%	56.8%	51.4%	37.9%	70%

⑧英語（外国語）の学習が好き、と答えた児童生徒の割合

・小学校（全ての公立小学校で調査）

(目標値)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
84.5%	83.4%	79.3%	83.0%	85.0%

・中学校（全ての公立中学校で調査）

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
未実施	未実施	66.8%	68.6%	69.1%	66.5%	67.5%	67.6%	78%

・高等学校（全ての全日制県立高等学校で調査）

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
未実施	30.0%	51.0%	53.4%	53.5%	51.4%	53.0%	55.8%	58%

⑨英語力が向上したと答えた児童生徒の割合

・小学校

(暫定値) (目標値)

令和2年度	令和3年度	令和4年度
84.0%	88.8%	90.0%

・中学校（全ての公立中学校で調査）

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
未実施	未実施	80.5%	83.6%	84.8%	83.5%	83.3%	82.2%	90.0%

・高等学校（全ての全日制県立高等学校で調査）

(暫定値) (目標値)

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
未実施	36.1%	60.5%	63.5%	66.6%	68.3%	72.2%	75.0%	80.0%

◆本県の現状と課題

①教員の指導力・英語力向上

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒が英語を使って何ができるようになるかを明確にした目標を設定し、言語活動を充実させた授業づくりの推進が必要である。また、新学習指導要領においては「授業は英語で行うことを基本とする」こととなり、教師の授業中の英語使用率及び英語力を向上させることが必要である。

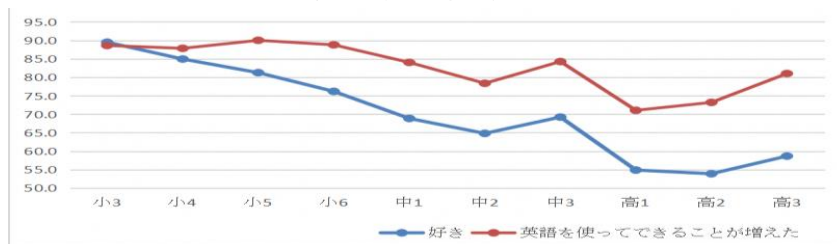
- ・教師の授業中の英語使用状況（発話の50%以上を英語で行っている教員の割合）は、中学校で68.4%、高等学校で37.9%と低い。
- ・「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標は、中・高等学校においてほぼすべての学校で設定されているが、半数以上の学校で活用されていない。「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定したものの、単元のまとめり或いは日々の授業と関連させる意識が弱いと考えられる。生徒との共有や評価場面での活用等、本来の趣旨を踏まえた活用に至っていない。小学校においては、「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標について、徐々に理解が深まっている段階であり、他教科と同様、従来の小学校での評価の在り方と繋げながら、周知を図ることが必要である。

②生徒の英語力向上

言語活動をとおして生徒が英語を使いながら身に付けられる授業づくりに向けての授業改善が求められる。中学生が県内で外部試験を受験する機会を確保するとともに、4技能の習得に向けた動機づけをさらに図ることが必要である。

- ・全県の中学2年生に実施した英検I B Aの結果によると、他の分野に比べて「読解」の正答率が低い傾向が続いている。まとまりのある文章内容の読解については、文章内容を的確に把握し、内容に関する質問に対する適切な答えを導く力に課題がみられる。また、日本語を介さない英問英答による読解活動に課題がみられる。
- ・県独自調査によると、「英語を使ってできることが増えた」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて、ゆるやかに下がる傾向がみられた。しかし、中学3年生及び高校3年生ではいずれも前学年と比較して高くなっている。教師だけでなく、生徒自身が英語力を客観的に捉え、児童生徒が自らの英語力を自覚し、自己調整しながら英語力を向上させることができるよう、指導と評価の一体化（CAN-DOリストの活用）及び授業改善を行いながら、生徒の英語力向上に取り組む必要がある。

令和3年度英語教育実施状況調査（県独自）



③小・中・高等学校の学びのつながりを重視した英語教育の推進

小・中・高等学校で系統性のある英語教育を実践するためにも、小学校での学びを中学校に接続させるなど、小小、小中、中高連携を強化する必要がある。各校種間連携の必要性は感じているが、実際の連携に進めるためには、管理職の理解や体制づくりが必要である。

- ・県独自調査に拠ると「英語の学習が好き」と回答した児童生徒の割合が、学年が上がるにつれて下がる傾向にある。児童生徒の発達段階や興味関心に応じた話題を扱ったり言語活動を工夫したりして学習への意欲を高めるとともに、どの段階においても児童生徒が「できるようになった」ことを実感するような指導と評価の一体化を継続することが必要である。

(2) (1) の目標を達成するための取組（施策の全体像と具体的な計画）

①教員の指導力向上のための方策

◆方策1 英語力を有した優れた人材を採用する

- ・公立学校教員採用候補者選考試験（小・中・高等学校教諭）の際、外部検定試験の一定条件を有する受験者に加点し、英語力を有した優れた人材を確保する。
- ・令和4年度公立学校教員採用候補者選考試験において、小学校教諭志願者で次の基準を満たす資格の所有者に対して、第一次選考試験の専門試験（筆記試験）の得点に加点した。

対象試験区分		基 準				加点
		実用英語技能検定	TOEFL	TOEIC L&R	TOEIC L&RとTOEIC S&Wの合算スコア※	
特別支援学校教諭	中学校教諭（英語） 高等学校教諭（英語）	1 級	iBT 100 点以上 又は PBT 600 点以上	880点以上	1680点以上	25点
		準1 級	iBT 80 点以上 又は PBT 550 点以上	730点以上	1405点以上	20点
	小学校教諭	2 級	iBT 45 点以上 又は PBT 470 点以上	550点以上	1100点以上	10点
		準2 級	iBT 38 点以上 又は PBT 400 点以上	450点以上	925点以上	5 点

※ TOEIC L&RとTOEIC S&Wの合算スコアは、次により算出する。

(合算スコア) = (L&Rトータルスコア) + (Sスコア)×25 + (Wスコア)×25

- 令和4年度公立学校教員採用候補者選考試験において、特別選考として「英語力に優れた者を対象とした小学校教諭選考」を新たに実施した。実用英語技能検定準一級程度以上の資格の基準を満たす者については、第一次選考試験のすべて及び第二次選考試験の専門試験（技能・実技試験）を免除した。

基 準			
実用英語技能検定	TOEFL	TOEIC L&R	TOEIC L&Rと TOEIC S&W の合算スコア
準1級以上	iBT 80点以上 又は PBT 550点以上	730点以上	1405点以上

◆方策2 研修及び指導助言等をとおして教員の指導力を向上させる

- 県教育委員会が「英語力向上事業」等で明らかになった生徒の英語力に関する課題を分析し、課題を克服する上で、英語による言語活動時間の確保についての重要性を周知するとともに、県教育委員会指導主事等による学校訪問をとおして、学校や生徒の実態に応じた指導改善について具体的に助言する。
- 教員は「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を生徒に示し、授業での指導内容を適切に評価し、達成状況を生徒と共有し、生徒に達成感を持たせながら、英語によるコミュニケーションの資質・能力の向上を図る。

【令和4年度に重点的に目指す「教員の姿」】

- 「CAN-DOリスト」を活用し、指導と評価の一体化が図られた授業を実践
- 互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動が充実した授業を実践
- 授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は生徒の理解の程度に応じた英語を用いて実施
- 「話すこと」「書くこと」におけるパフォーマンステストを実施（「CAN-DOリスト」活用）

〔実施事業〕

ア

研修名	小学校英語専科教員等指導力向上研修
研修対象者	小学校英語専科加配教員、希望する小・中学校教員、希望する市町村（学校組合）教育委員会指導主事等
研修目的 内容	小学校英語専科教員等の指導力を担保するとともに、本県小学校外国語教育のリーダーとして県内小学校英語教育を牽引するため、研修会及び連絡協議会を開催し、指導力を向上するとともに、リーダーのネットワークを構築する。鳥取県エキスパート教員である一部の専科教員は、授業公開により広く県内に授業の在り方を広める。

イ

研修名	土曜の英語学び塾（小学校）（中学校）
研修対象者	希望する小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の教職員、教員志望の大学生、小学校外国語・外国語活動支援員、県教育委員会・市町村教育委員会の担当者等
研修目的 内容	学習指導要領を踏まえた外国語教育の授業づくりの基礎・基本について体験をとおして理解し、指導の基礎・基本及び英語力を身に付ける。

ウ

事業名	中学校・義務教育学校訪問<外国語（英語）科>
事業対象者	県内すべての中・義務教育学校
事業目的 内容	「鳥取県が目指す小・中・高等学校一貫した英語教育の姿」、「鳥取県における小・中学校英語教育7年プラン」及び「新学習指導要領の趣旨を踏まえた小・中学校外国語科の授業づくり」を策定し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の推進を図るため、県内すべての全中・義務教育学校を訪問し、外国語科（英語）の授業を参観の上、教科書を活用した4技能統合型の授業づくりについて具体的に指導助言する。事前に本県が目指す外国語科の授業づくりについて外国語科（英語）担当教員に説明するためのオンライン研修会を開催する。

エ

研修名	出かける学びの改革推進室（英語）
研修対象者	希望する中学校、義務教育学校（後期課程）の英語担当教員及び市町（学校組合）教育委員会
研修目的 内容	県教育委員会指導主事等が、希望する学校を訪問し、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査（中学校英語）や英語力向上事業等の分析や授業参観をとおして明らかとなった当該校の個別課題等について、学校現場の教員と一緒に具体的な改善策等を考え、さらなる指導力の向上を目指す。30分コースから100分コースまで、各学校のニーズに寄り添いながら支援する。

オ

研修名	鳥取県エキスパート教員による授業公開 *一部、英語教育推進リーダー
研修対象者	小・中・義務教育・高等・特別支援学校の教員（任意参加 200名程度）
研修目的 内容	エキスパート教員の教育指導技術等の普及とより一層の専門性の向上に向け、公開授業・研究授業及び研修会を実施する。

カ

研修名	生徒の学習意欲を高めるための指導と評価についての研修
研修対象者	各県立高等学校英語教員、希望する中学校教員 50名程度
研修目的 内容	生徒の英語によるパフォーマンスを適切に評価し、指導と評価の一体化に基づいて定期テスト問題を改善するとともに、教員が評価を自らの指導改善につなげるため、東京外国語大学教授及び島根大学教授を講師に招聘し、研修を行う。（※年度内各校種1回実施）
研修評価	研修参加教員を対象とするアンケート調査

キ

研修名	外国語指導助手の指導力等向上研修
研修対象者	ア 中・高等学校外国語指導助手 イ 中・高等学校英語教員 *150名程度
研修目的 内容	学習指導要領に基づき、外国語指導助手と英語教員が協力しながら、より効果的な指導を行えるよう、専門の有識者による講義演習を行い、各校の取組の改善について協議する。
研修評価	研修参加教員を対象とするアンケート調査

ク

研修名	鳥取県教育課程研究集会（小学校）（中学校）（高等学校）
研修対象者	ア 市町村（学校組合）立小・中・義務教育学校（前・後期課程）の教職員 イ 高等学校の教員
研修目的 内容	学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施における諸問題や学習評価等に関する理解を深め、教育課程の適切な実施と学習評価の充実に資することを目的に研修会を実施する。中学校英語部会では、目的・場面・状況を適切に設定した言語活動の実施や英語を用いて授業を行うこと、CAN-DOリストを活用した指導と評価の一体化を促す。*動画配信となる場合もあり
研修評価	研修参加教員を対象とするアンケート調査

〔その他〕

- ・中学校英語教育研究会との連携
- ・鳥取県英語教育推進会議で作成した「シャトルチャット」（中学生用の即興的なやり取り素材集）の活用や「好事例を紹介した動画」の活用

②生徒の英語力向上のための方策

＜生徒向け＞

- ・中学生が県内で外部試験を受験する機会を確保し、生徒自身が客観的に自分自身の英語力を認識することで、英語学習へのさらなる意識づけを図る。
- ・学校以外でも英語を使用する機会を多様に設定し、英語学習のさらなる意識づけを図る。

〔実施事業〕

ア

事業名	英語力向上事業（中学校）
事業対象者	県内中学2年生全員 5000名程度
事業目的 内容	中学生が県内で外部試験を受験する機会を確保し、外部試験受験の実施をとおして、客観的に自己の英語力を認識することで英語学習のさらなる意識づけを図るとともに、結果を分析・活用して課題に即応的な学習改善に主体的に取り組ませる。教員は、結果等を分析の上、PDCAサイクルによる授業改善等に活用する。

イ

事業名	グローバルリーダーズキャンパス
事業対象者	希望する高校生 25名程度 *その他オンライン視聴に対応
事業目的 内容	世界トップクラスの大学である米国スタンフォード大学と連携し、インターネットを活用した県内高校生向けのライブ遠隔講座を開設することにより、幅広い国際感覚を身につけ、実践的な英語力をさらに伸ばすとともに、世界を視野に入れて活躍する高い意欲と志を持った人材の育成を図る。
事業評価	アンケート調査、生徒の変容、スタンフォード大学職員による評価

ウ

事業名	鳥取発！高校生グローバルチャレンジ事業
事業対象者	希望する高校生
事業目的 内容	国内企業（県内企業を含む）の海外進出や外国人雇用、あるいは英語の社内公用語化などのグローバル社会の到来を迎え、グローバル化に対応できるよう留学などの海外体験を通じて、柔軟な思考力や豊かな表現力を持ち、国際社会で活躍する人材を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生海外留学・海外体験説明会 *オンライン含む ・高校生海外留学支援事業、高校生海外体験支援事業（短期留学） ・高等学校等海外派遣支援事業 ・高校生英語弁論大会 ・鳥取県高校生英語弁論大会優秀者派遣事業 ・ニュージーランドクライストチャーチ高校生架け橋プロジェクト
事業評価	アンケート調査、生徒の感想、審査員の講評等

③小・中・高等学校の学びのつながりを重視した英語教育推進のための方策

〔実施事業〕

ア

事業名	鳥取県英語教育推進プロジェクトチーム会議
事業対象者	大学教授 岐阜大学 巽教授、信州大学 酒井教授 教育長 市教育長、町教育長 校長 小学校長、中学校長、高等学校長 *小・中学校は、任意教育研究団体の外国語教育部部長に依頼 エキスパート教員 小・中・高等学校の教員 各1名 *優れた教育実践を行う教員を鳥取県が「エキスパート教員」に認定
事業目的 内容	・年に2回（6月、12～1月頃を予定）会議を実施 ・会議では、小・中・高等学校で系統性のある英語教育を実践するための最優先

	施策を検討・策定する ・本県英語教育の推進に係る施策及び事業等の評価・検証をする ・「鳥取県が目指す小・中・高等学校で一貫した英語教育の姿」等のより効果的な周知と実践のための具体的な方策等を検討する ・任意教育研究団体等での取組につなげていく
イ	
事業名	英語教育研修協力校支援事業
事業対象者	英語教育研修協力校英語科教員及び域内の小・中・高等学校英語教員並びに希望する市町村（学校組合）教育委員会 90名程度
事業目的内容	県教育委員会が連携する英語教育学を専門とする大学等の教員が、県版英語教育研修協力校教員の授業改善について指導助言を行ったり、同研修協力校が自校の課題を解決することを目指して招聘する大学教員等の授業研究会（ワークショップ）を開催したりすることをおして、小・中・高等学校で系統性ある英語教育を実践するための具体的な連携の在り方や指導法について研修する。（※同研修協力校ごとに年度内1回実施）特に、パフォーマンステストのモデルやルーブリックを開発し、その実践における成果と課題を検証し、授業研究会や学校教育支援サイト等への随時掲載等をおして、パフォーマンス評価の在り方について全県に周知する。
事業評価	事業参加教員を対象とするアンケート調査

ウ

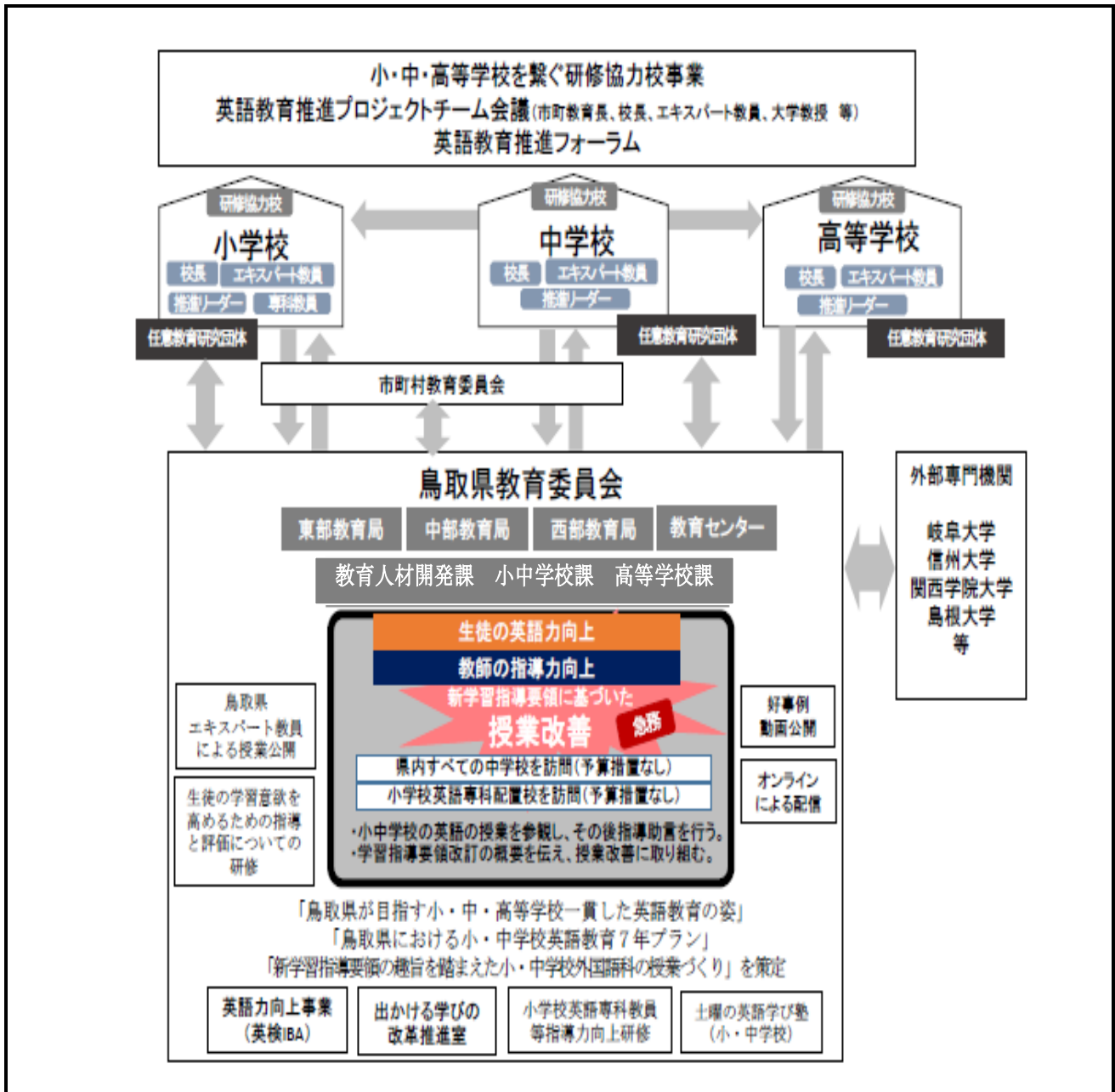
事業名	鳥取県英語教育推進フォーラム
事業対象者	小・中・高等学校英語教員及び希望する市町村（学校組合）教育委員会 120名程度
事業目的内容	小・中・高等学校英語担当教員が一堂に会するフォーラムを開催し、鳥取県英語教育推進会議における議論等の成果及び県内小・中・高等学校における指導実践好事例等を還元するとともに、外部有識者による指導法等に関する講義を受けて、小・中・高等学校で一貫した英語教育の推進を図る。
事業評価	事業参加教員を対象とするアンケート調査

<年間事業計画及び概要>

月	鳥取県の取組	外部専門機関等
4月	・県内すべての中学校を対象に授業改善のポイントについて周知	
5月	・研修協力校連絡協議会① ・小学校英語専科教員連絡協議会①	
6月	・英語教育推進PT会議① ・小学校英語専科配置校訪問（すべての学校） ・研修協力校校内授業研究会（小・中・高等学校）	岐阜大学・信州大学
8月	・生徒の学習意欲を高める指導と評価についての研修 ・研修協力校連絡協議会② ・中堅教員等資質向上研修＋6年目研修（高等学校） ・鳥取県教育課程研究集会	東京外国語大学 島根大学
9月	・研修協力校支援研修公開授業（中・高等学校） ・小学校英語専科教員指導力向上研修 ・専門研修（高校英語） ・中堅教員等資質向上研修＋6年目研修（中学校） ・初任者研修（高等学校）	※学校の希望に拠る ※学校の希望に拠る 関西学院大学
10月	・研修協力校支援研修公開授業（小学校）	※学校の希望に拠る
11月	・英語教育推進フォーラム	岐阜大学・信州大学他
12月	・外国語指導助手の指導力等向上研修	
1月	・小学校英語専科教員連絡協議会②	

2月	<ul style="list-style-type: none"> ・研修協力校連絡協議会③ ・英語教育推進PT会議② 	岐阜大学・信州大学
<p>【その他の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語活動・外国語支援員の配置（通年） ・県内すべての中・義務教育学校を訪問（通年） ・外部試験を活用した中学生の英語力向上事業（すべての中学2年生が英検I B A受検） ・「出かける推進室」（希望する中・義務教育学校に訪問 4月～2月） ・土曜の英語学び塾（県内指導主事が講師となり、希望する県内教員を対象に年3回開催） ・各教育局主催の研修 ・グローバルリーダーズキャンパス（スタンフォード大学連携高校生遠隔講座。年間10回実施） ・高校生英語弁論大会（9月実施） ・鳥取県エキスパート教員による授業公開（通年） 		

(3) (2) を実施する体制の概要



鳥取県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		公表(%)	100	100	100	93.8	100	100	100	100	100
		達成状況の把握(%)	50	37.5	50	28.1	55	60	65.5	65	65
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	55	48.7	55	54.5	57	59	31.6	60	60	
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	2	1.1	2	1	2	3	1.1	3
			コミュニケーション英語Ⅱ	2	0.5	2	0.6	2	3	1.2	3
			コミュニケーション英語Ⅲ	2	0.6	2	0.2	2	3	0.6	3
			英語表現Ⅰ	2	0.9	2	0.7	2	3	0.6	3
			英語表現Ⅱ	2	0.7	2	0.8	2	3	1.0	3
		○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	2	1.9	2	0.9	2	3	1.8	3
			コミュニケーション英語Ⅱ	2	1	2	1.2	2	3	1.3	3
			コミュニケーション英語Ⅲ	2	0.7	2	1.4	2	3	1.3	3
			英語表現Ⅰ	2	1.8	2	1.4	2	3	2.0	3
			英語表現Ⅱ	3	2.4	3	4.4	5	6	3.5	6
	新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ								
			英語コミュニケーションⅡ								
			英語コミュニケーションⅢ								
			論理・表現Ⅰ								
			論理・表現Ⅱ								
		○ライティングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ								
英語コミュニケーションⅡ											
英語コミュニケーションⅢ											
論理・表現Ⅰ											
論理・表現Ⅱ											
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	65	50.8	65	56.8	65	70	37.9	70			
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	88	97.4	98	92.7	98.5	99	96.0	99			
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	45	33.3	45	42.7	50	51	45.8	52			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	96.5	100	100	100	100	96.4	100	
		公表(%)	50	43.9	70	53.6	70	90	51.8	100	
		達成状況の把握(%)	50	38.6	50	37.5	40	90	46.4	100	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	75	67.2	75	70.4	80	85	66.0	90		
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	6.5	8.7	9	8.8	11	12	11.6	13	
		ライティングテスト(回)	5	7.6	8	8.5	9	10	8.5	11	
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	65	63.4	70	64	72	74	68.4	76			
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	40	35.8	40	35	43	46	33.5	50			
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40	37.1	40	38.8	45	50	40.3	50			

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)				50	75	65.2	100		
		公表(%)				25	75	14.9	100		
		達成状況の把握(%)				50	75	41.3	100		

独自 No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	英語の学習が好きと答えた児童の割合	68	84.5	85	83.4	86	79.3	87	83.0	88	
	英語を使ってできることが増えたと答えた児童の割合						84	85	88.8	90	
中学校	英語の学習が好きと答えた生徒の割合	70	69.1	73	66.5	75	67.5	78	67.6	80	
	英語力が向上したと答えた生徒の割合	85	84.8	87	83.5	90	83.3	91	82.2	92	
高等学校	英語の学習が好きと答えた生徒の割合	57	53.5	57	51.4	57	53	58	55.8	60	
	英語力が向上したと答えた生徒の割合	67	66.6	68	68.3	70	72.2	75	75.0	74	